2025.10.2 会長時間より　「四つのテスト」　　創立会長　諏訪昭浩

「四つのテスト」は、ロータリアンが大事にしている職業上の、そして生きていく上の倫理基準です。

「四つのテスト」を作ったのは、シカゴロータリークラブの会員であった、ハーバート・テイラーという人です。彼がシカゴロータリークラブの会員になった時、彼は経営者として成功していましたが、シカゴにある倒産寸前のアルミ調理器具会社の再建を依頼されます。そして彼は自己資金も投入してこの再建の仕事を引き受けます。1930 年代初めで、ちょうど 1929 年から始まった世界大恐慌の 2 年目のことでした。社員は夢を持てず意気消沈していましたので、まず彼らを元気にするために、仕事をする上で倫理的な拠り所となるような指針を作成することにしました。このようにして 1932 年にできたのが「四つのテスト」でした。

「四つのテスト」はこの会社の再建過程で意思決定の指針となりました。たとえば広告では、「最高の」や「最高級の」という誇張した表現が削られ、事実に基づいた説明文が載せられました。競合他社の欠点を指摘する文面も取り除かれました。こうして、「四つのテスト」はあらゆる面において意思決定の指針となり、その結果、従業員、顧客の間に、会社に対する信頼が生まれ、同社は見事再建されたのです。

世界大恐慌で、ロータリアンの経営する会社の多くは倒産しなかったと言われています。それはもしかしたら、この「四つのテスト」を大切にし、そしてこれを経営の中で実践したからではないかと思います。

会社にも社是があります。社是とか、この「四つのテスト」とか、こういったものは大変わかりやすく書かれていて、すぐに理解できると思います。しかし、最も大事なのは、これを実践することです。以前お話ししたように、2007 年に起こったミートホープの食品偽装。ミートホープの社長はロータリアンでした。彼は「四つのテスト」を理解していたはずです。だから真実ではないことをするはずはないのですが、やってしまった。それはなぜかというと、理解すると実践するは別物だからです。実践は難しいのです。

僕は常々、ロータリーは良い経営者、良い人間になるための自己教育運動であると申し上げていますが、自己教育を重ねれば「四つのテスト」が実践できるようになるはずです。是非長期的に取り組んでいただきたいと思います。

尚、「いつも真実ばかりでは生きていけない」という言葉もありますが、確かに現実社会ではそういうこともあります。「四つのテスト」をどう考えて実践すればいいのか、この話は別の機会といたします。